

近松 再来



それでも人は恋をする

さばえ近松文学賞2018 ～恋話(KOIBANA)～ 作品募集。

近松門左衛門が生まれ、多感な少年時代を過ごした福井県鯖江市。
近松作品の原点になったまち・さばえが恋にまつわる短編小説を募集します。
北陸新幹線金沢までの開業、舞鶴若狭自動車道の全線開通で
「近松が生まれたまちさばえ」がより近くなりました。

2017入賞作品を電子書籍で販売中！ (<http://bobobooks.com>)

近松はやはり鯖江で生まれていた!!



新・近松ものがたり

発売中

【株式会社】
鯖江市校所文化振興
TEL.0778-53-2257

世界に誇る文豪・近松門左衛門が生まれ、
多感な少年時代を過ごした福井県鯖江市。
「近松作品の原点になったまち さばえ」が
恋にまつわる短編小説を募集します。



募集要項 : 恋にまつわる短編小説(男女の恋愛だけに限るものではありません)、400字詰め原稿用紙10枚まで。最低1箇所は鯖江に関するもの(歴史・文化・産業等)を入れてください。題材は不問。未発表のものに限ります。学生部門は高校生まで。なお、著作権は主催者へ帰属します。

表彰 : [近松賞(1点)]賞金10万円、賞状、副賞(清酒“梵”、「石田織」オリジナルグッズ)
[優秀賞(3点)]賞金3万円、賞状、副賞(清酒“梵”、「石田織」オリジナルグッズ)
[佳作(5点)]賞金1万円、賞状、副賞(清酒“梵”、「石田織」オリジナルグッズ)
[松平昌親賞(学生部門・1点)]図書券1万円、賞状、副賞(ちかもんくんグッズセット)
入賞作品は鯖江市ホームページに掲載、電子書籍で販売。

審査員 : [審査員長] 林哲治氏(さばえ近松倶楽部代表)
[審査員] 土山彌一郎氏(元福井テレビ解説委員)
水間貴子氏(元鯖江市国語科研究部長)
高島達夫氏(元近松の里づくり事業推進会議会長)
[特別審査員] 桂美人氏(小説家)



[特別審査員] 小説家 桂美人 かづらびじん

1973年福井県生まれ。専修大学卒。
『ロスト・チャイルド』で第27回横溝正史ミステリ大賞を受賞し作家デビュー。
過去には、福井新聞社のリレーエッセイにも参加した。主な著書に『マリア』、『エンディングノート』、『岸は急げ! 落護寺・雲水相談室事件簿』がある。

応募方法 : 鯖江市ウェブサイト内に設置する専用サイト
(<http://www3.city.sabae.fukui.jp/chikamatsu/index.html>)からの電子応募
または下記応募先に原稿と**応募用紙**を同封の上郵送。

締め切り : 2018年6月30日。郵送の場合は当日消印有効。(期限厳守)

郵送での応募先 : 〒916-0005 福井県鯖江市杉本町702-2
立待公民館内「さばえ近松文学賞」係

スケジュール : 2018年6月30日 応募締め切り
2018年9月上旬 第一次審査
2018年10月上旬 第二次審査、入賞作品決定
2018年10月中旬 入選者のみ通知、あわせて福井新聞紙上とホームページにて発表
2018年11月3日(土)「The 門左衛門 2Days」で入賞作品の表彰式、記念公演

さばえ近松文学賞2018 [応募用紙]

フリガナ
作品タイトル

フリガナ			
氏名	住所 〒 -		
職業 (○をつけてください。任意)	会社員/公務員/自営業/専業主婦/パート・アルバイト/大学・短大生/専門学生/高校生以下/その他		
年齢	電話番号	メールアドレス	
応募部門 (○をつけてください)	一般/学生(学校名:	学部・学科名:	学年:)
作品の中に取り入れた鯖江の題材			

江戸時代を代表する文豪

ちかまつ もん ざ えもん

近松 門左衛門 (1653~1724)

人形浄瑠璃や歌舞伎のすぐれた作品を数多く残した近松門左衛門は鯖江で生まれ、多感な少年時代、人間形成の大切な時間を過ごしています。義理人情に悩む日本人の間らしい姿を描き出す近松文学の土壌は、鯖江の豊かな自然と人情、風情に育まれたと言えるでしょう。「東洋のシェイクスピア」と呼ばれるほどに、人間の悲しさや愚かさ、やさしさを描いたその作品は360年を経た現在も愛され続けています。



そがごくしちろう
曾根崎心中



きよまさのつばさ
冥途の飛脚



おんながっこう
女殺油地獄

近松門左衛門と「近松の里 たちまち」

近松門左衛門(本名:杉森信盛)が生まれ育った、「近松の里 たちまち」。古い面影を残す城下町には、かつて栄えた活気ある土地の記憶があります。由緒ある神社には、日々の喧騒を忘れさせる神聖な空気が流れています。豊かな自然や草花には、心身をやさしく癒してくれる力があります。この地には正保二年(1645年)から29年間、徳川家康のひ孫にあたる松平昌親公を藩主とする吉江藩がありました。近松の父、杉森信義は当時福井藩士として仕えていましたが、藩主昌親公のお付きの人に任命され吉江の地に移ってきました。そして、この地で信盛(近松門左衛門)が誕生しました。今も吉江藩があった「近松の里 たちまち」には風情を残す吉江七曲り通りや春慶寺、福正寺、西光寺、榎お清水、蓮池など近松ゆかりのパワースポットが整備され、スタンプラリーも実施されています。現在は当時の佇まいを見ることはできませんが、変わらない地割りや道路の幅や形状から吉江藩の様子を伺い知ることができます。そんな「近松の里 たちまち」を訪れてみませんか。



吉江七曲り通り



春慶寺



福正寺



西光寺表門(吉江藩表門を移築)

問合せ

近松の里づくり事業推進会議事務局(近松の里たちまち「立待公民館」内)
[TEL] 0778-51-3376 [FAX] 0778-51-8416 [e-mail] SC-CC-Tachimachi@city.sabae.fukui.jp
(※選考に関する詳細についてはお答えできません。)

web

[鯖江市教育委員会文化課] <http://www.city.sabae.fukui.jp/pageview.html?id=27>
[近松の里たちまち] <http://www1.ttn.ne.jp/~cc-tatim/>
[鯖江市観光サイト] さばかん (<http://www.city.sabae.fukui.jp/users/kanko/>)

再来 近松

そ
れ
で
も
人
は
恋
を
す
る

近松の里
たちまちスタンプラリー
パワー++++
スポットめぐり
実施中!

近松の恋物語が
360年の時を経て現代によみがえる・・・。

近松ゆかりの歴史と豊かな自然があふれる空間、そこに咲き乱れる花に込められた恋話=恋花メッセージを紹介しています。すべてのスポットを巡って、時を超えて生まれ変わった近松ゆかりのパワースポットに触れてみてください。



5 古い町並みと桜の木
吉江藩2万5千石の城下町の面影が残る、吉江七曲り通り。一年を通して華がありますが、春には桜の花で彩られ、美しい風情を醸します。



7 国性爺合戦の絵馬
近松の代表作のひとつ「国性爺合戦」は、時代物の中で最も有名な作品です。その絵馬が西香天満神社に奉納されています。(市指定文化財)



12 榎お清水 (市指定文化財)
千石の昔より流れることなく健康長寿の水として親しまれ、吉江藩主・松平昌親公や村人達の喉を潤してきました。近松もこの水で産湯を使ったといわれています。



「近松が生まれたまちさばえ」に来てみませんか?

鯖江に來られて作品を制作される方へ、伝統産業や伝統芸能の体験等をあさせいたします。(体験料のみ無料、要スケジュール調整)

めがね型ストラップ作り体験



レンズ部分の穴は2種類にあらかじめ開けられているので、外側の部分をヤスリなどで整え、磨いてツツヤペカピカに仕上げます。体験時間は約40分。インストラクターが親切に指導してくれるので安心です。

[めがねミュージアム]
福井県鯖江市新横江2-3-4
(めがね会館内)
TEL.0778-42-8311
<http://www.megane.gr.jp/museum/>

「石田織」手織り体験



手織り機を使って石田織のコースターを織る体験ができます。体験時間は約20分。アドバイザーが付いていますので、初心者でも大丈夫。柔らかな機織りの音に、流れる時を感じる、癒しのひと時です。

[石田織手織りセンター]
福井県鯖江市札町32-1-1
(鯖江市織機会館内)
TEL.0778-52-1880
<http://s-senkyo.com/index.html>

越前漆器絵付け体験



筆に漆をふくませて模様を描く蒔絵、表面に模様を掘り、金箔・金粉を押し込む沈金という伝統的な越前漆器の技法を漆器職人が丁寧に教えてくれます。体験時間は約1時間。お気に入りの1点を作ってみませんか。

[うるしの里会館]
福井県鯖江市西袋町40-1-2
TEL.0778-65-2727
<http://www.echizen.or.jp>

人形浄瑠璃体験



人形浄瑠璃「近松座」による人形の動かしかたを体験できます。両手を使っての難しい人形の扱いですが、近松座の人形遣いが優しく指導をしてくれます。体験時間は約30分。

[立待公民館]
福井県鯖江市杉本町702番地2
TEL.0778-51-3376
<http://chikamatsuza.sub.jp/index.html>